

2018年11月14日（水）

ないじえる芸術共創ラボ 古典インタプリタ日誌 松平莉奈さん WS 初めてのワークショップ—古典籍の顔—

1, 1回目のご来館

11月14日、公募を経て10月より新しくAIRとしてないじえる芸術共創ラボに参加して下さることになった松平莉奈さんの初回WSを行いました。初回WSにはキャンベル館長も同席し、面接以



¹ この直前に、松平さんの個展「悪報をみる—『日本霊異記』を絵画化する—」（2018年11月1日～11日、於京都市カホ・ギャラリー）が開催されていたので、古典インタプリタもお邪魔しました。5～9世紀の奇談を収めた、日本最古の仏教説話『日本霊異記』。そのなかのさまざまな不思議なおはなしからインスピレーションを受

来初めて来館された松平さんに挨拶し、激励の言葉を贈っておられました。

2, 入口先生の講義—日中韓の古典籍—

松平さんは、これまでも日本の古典文学をモチーフとして作品を創作してこられました¹。しかし原本を扱う経験は少なかったとい



け、松平さんの解釈・現代の人の心をのせて描かれた9点の絵画作品を拝見し、お話をうかがいました。素材に対する深い理解、そしてわからないところはわからないとおっしゃる素直なお心が印象的でした。

2018年11月14日（水）

うことをうかがっていたので、まずは「モノ」としての古典籍と出会っていただくべく、古い本のことにお詳しい入口敦志先生（当館教授）に講義をお願いしました。

入口先生は、ご自身の蔵書をお持ちくださり、日本だけでなく、中国や朝鮮（現在の韓国）の様々な古典籍資料を用いながら、形のこと、つくりかたのこと、国ごとの違いのことについてお話をくださいました。

入口先生のお話では、同じアジア人でも、顔を見ればなんとなくどの国の人なのか想像できるのと同じように、共通点の多いアジアの古典籍も、“顔”を見ればどの国のものなのかが分かるとのこと。

大きさや綴じ方の違いについてお話くださった内容は、梁亜旋さんのWSについての日誌（2018年7月19日）でもレポートしていますので、そちらをご参照ください。

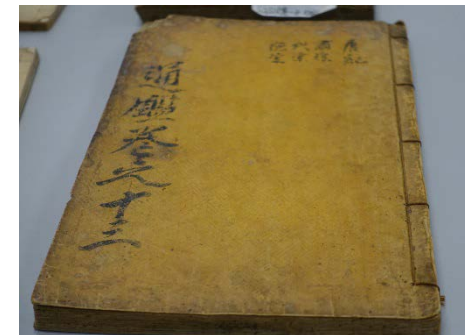
今回特に印象的だったのは、本の形態のさまざまな部位に見られる違いが、それぞれ関連性のあるものだというお話と、絵に関する文化の違いでした。

たとえばタイトルの位置の違いです。

日本の古典籍でお馴染みなのは、表紙に「題簽^{だいせん}」と呼ばれる細長い紙を貼り、そこに書名を書いたり印刷したりしている形式ですが、朝鮮や中国のスタンダードは異なるそうです。

入口先生がお持ちくださった本を見てみると、朝鮮本は表紙に直

接書名が書かれています。そして中国の本の表紙には書名がない……？



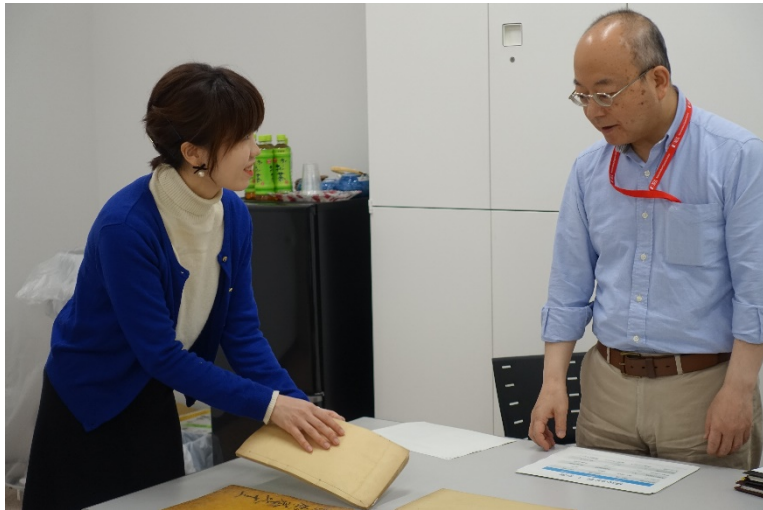
左が日本の本、右が朝鮮の本。大きさも違います。

2018年11月14日（水）

中国の本を横から観察すると、小口（折目以外の三方）のところに文字が書いてあります。中国の本は、重ねて横置きした時に見えるよう、小口に書名を書いているのです。

日本の古典籍も、基本的には重ねて横置きにしますが、中国の本の表紙は日本のものよりも薄くて（竹紙を使うため）飾り気がなく、確かに小口に書いた方が実用的な感じがします。

また、今回入口先生が持ってきてくださった本の表紙を見比べると、日本のものが一番派手でした。なんとなくエキゾチックな模様が印刷してあり、全く飾り気のない中国本の表紙との違いが際立ちます。



² 堀川貴司『書誌学入門』（勉誠出版、2010年）

日本でも表紙が分厚く装飾的になったのは、室町時代頃からといわれますが、江戸時代のものだと裏紙をつかって丈夫な表紙をつけています²。それでも中国風の装訂で本を作る（唐本仕立て）ときには、意識的に竹紙を用いて薄い表紙をつけることもあるそうで、まさに表紙はそれぞれの書物文化の“顔”といえそうです。

また、本の内容の違いについてのお話も印象的でした。

ひときわ大きくて立派な朝鮮本ですが、そもそも、朝鮮本はほとんどがまじめなものなのだから。中国や日本には娯楽本が存在し、絵の入った本もたくさんあります。書物がどのような層の人たちのためのものだったのか、という事情も、国によって違いそうです。

日本では、大きな本は真面目な内容、小さな本は娯楽本という傾向があります。江戸時代後期に多数出版された絵入の読み物は、今でいうB6版に近いサイズなのです。

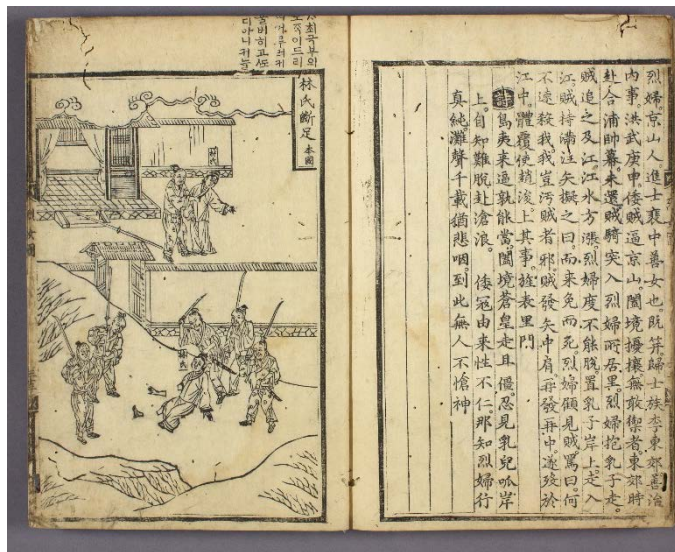


2018年11月14日（水）

また、表紙のデザインにもみられるように、日本人はどうもブックデザインに凝るようだ、ということから、興味深いお話もうかがいました。

朝鮮で出版された『三綱行実図』³（庶民に儒教の教えを説くために作られた書籍）には、派手な服を着て刀を差した日本人（倭寇と思われる）が登場するのだそうです。

さらにルイスフロイスも、その著述のなかで「日本人の男はプリントされた服を着ている」と述べているのだそうで……



³ 早稲田大学古典籍総合データベース 請求記号：ロ 09_01076 (http://archive.wul.waseda.ac.jp/kosho/ro09/ro09_01076/ro09_01)

入口先生によると、織りではなく、布に色で絵を描いてある着物は珍しかったのだとか。このエピソードをとってみても、日本人がデザインに凝る傾向にあるのが分かります。

日本の古典籍のデザインに工夫が凝らされているのは、このような好みが生じているのかもしれませんが。

3, 古典籍をめくってみる

さて、「どうぞ自由に触ってみてください」と本を渡された松平さんからは、「古い本を見るルールはあるのですか」というご質問をいただきました。

そこで、まずはひとつおりの古典籍の扱いについてご説明させていただきます。

- ・まずは指輪や時計といった装飾具をはずし、手を石けんで綺麗に洗います⁴。
- ・長い髪やネックレス、IDカード、長い袖など、手元をのぞき込んだときに古典籍に触れるおそれのあるものもすべて外すか、コンパクトにまとめるかします（傷つけたり汚したりするものを身につけていないか、あるいは身体がそのような状態ではな

⁴ [076_0003/ro09_01076_0003_p0035.jpg](http://archive.wul.waseda.ac.jp/kosho/ro09/ro09_01076/ro09_01076_0003_p0035.jpg)

⁴ よく「手袋はしないんですか」と聞かれますが、手袋の繊維が紙

2018年11月14日（水）

いか（指に怪我をしているなど）を確認し、あらゆる危険を取り除く必要がある）。

- ・ 不要な箇所を触ったり、資料の上で喋るといったことは勿論御法度で、特に気を遣う資料に接する際にはマスクをしたりハンカチを口にあてたりもします。
- ・ 机の上は清潔にし、清潔な薄葉^{うすよう}を敷いた上で古典籍を広げることもあります。古典籍を見るところに飲み物などは持ち込まず、筆記用具も鉛筆のみを使用します。

松平さんはすぐに首の ID カードを外してくださいました。

そして入口先生を観察し、「ページの端を持ってめくる」という動作を身につけておられましたよ。



の繊維を傷つけてしまったり、古典籍に残ってしまうことを避ける

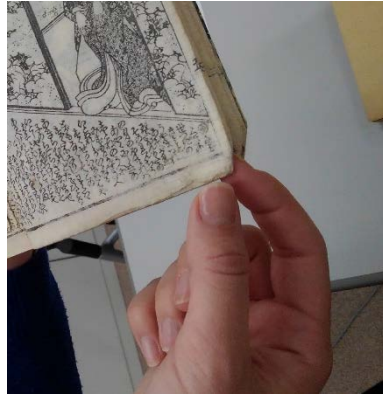


ために、基本的には清潔な素手で触ります

2018年11月14日（水）

ここで松平さんが注目されたのは、読み込まれた^{くさぞうし}草双紙（江戸時代に刊行された絵入読み物）のページの端です。

「どうしてここが汚れているんですか」とご質問いただきました。これは、江戸時代からその場所を持ってめくっているからです。草双紙は子どものおもちゃのようなもので、消耗品という性格が強いものですが、やはり本は大切だったようで、文字や絵が刷ってあるところは触らないのです。



どの時代においても皆が触っていた場所に手擦れができ、その部分だけ紙が薄くなったり、手垢で黒くなったりしていますが、これはその本が大切に、何度も読まれた証しなのです。

4, 和歌がインデックス？—和文の伝統—

さて、古典籍の中身は大抵連綿の「くずし字」で書かれていて、現代においてはトレーニングしなければ読むことが難しいのではないのでしょうか。

松平さんに、「先生達は簡単に読めるのですか」とご質問いただいたことをきっかけに、入口先生から、この日のWSを総括するよう

な面白いお話をうかがいました。

私たち研究者も、やはり読むのに苦勞する文字はあります。それと同じで、昔の人たちも簡単には読めていなかったのでは、というご説です。

それは、和文（物語）の伝統から導き出された説だそうですが……

通常、散文と和歌を一緒に記す際には、和歌は字下げをして記されます。意味が分からずに眺めると、そこはまるで「インデックス（章題）」のように見えるのです。

たとえば仏教の教えなどを分かりやすく説いた説話集などは、漢字やカナで表記されているため連綿しづらく、しかもインデックスがあるため、読みやすいのですが、和文（物語）にはインデックスがなく、連綿したかな文字で表記されているため、どこに何が書いてあるのか分かりにくいはず。

そこで頼りになるのが、視覚的にも目立つ和歌です。和歌の順番さえ覚えておけば、その前後の内容も見当が付く……というご説明には、深く納得です。そして、昔の人たちも字を読むのに苦勞したんだ……と思うとなんだか安心します。

松平さんも、くずし字で書かれているのか、漢字で書かれているのかによって、昔の人も読み方が変わるはずだ、と深く納得していらっしゃいました。

2018年11月14日（水）

先生はこのWSで、「モノ」を見ることの大切さを教えてくださいました。モノが目の前にあると、形体が分かります。国や、時代、内容など、さまざまな要因で異なる形体があるのだとすると、それぞれどのような読み方をしたのだろうか、と具体的に考えざるを得ません。

国文学研究資料館は、たくさんの「モノ」が所蔵されている機関です。AIR・TIRのみなさんには、是非実物にたくさん触れていただこうと、思いを新たにしました。

5, 次回は…

『三綱行実図』^{さんぎょうこうじつず}の話題から、昔の道德の話題に発展したときに、「江戸時代には、善と悪を擬人化したキャラクターが登場します」というお話をしたところ、関心を抱いてくださいましたので、次回は江戸時代のへんなキャラクターたちをご紹介します、とお約束いたしました。